

講義科目名称： 老年看護学特別演習 I

授業コード： 6630700500

英文科目名称： Seminar of Gerontological Nursing I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2学年	2単位	選択 老人看護CNS必修
担当教員			
◎小長谷百絵、原等子、東條紀子			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 後期	【授業時間】 30時間			
	【担当教員】				
	【氏名】 ◎小長谷百絵 原 等子 東條 紀子	【所属】 新潟県立看護大学 同上 同上	【研究室】 213 303 308	【メールアドレス】 konagaya@niigata-cn.ac.jp naohara@niigata-cn.ac.jp toujou@niigata-cn.ac.jp	
	【本学の科目区分】 専門分野				
	【D P 1】 ○	【D P 2】 ◎	【D P 3】 ◎	【D P 4】 ◎	【D P 5】 ◎

到達目標	<p>1. 加齢変化に伴う慢性疾患および家族関係が複雑な状態にある高齢者と家族の包括的アセスメントに基づく看護の必要性の診断、看護計画の立案ができる。</p> <p>2. 高齢者の医療施設（一般病院、地域包括支援病院・病棟、回復期リハビリ病棟など）における入院治療、慢性的継続的に必要となる薬物・食事・運動療法などを在宅やケア施設における健康管理、病院-施設-在宅間のケア連携に必要な制度や多職種連携について計画し、評価できる。</p> <p>3. 1, 2 を通して老人看護 CNS に求められる多職種（専門職）連携・協働のための調整、相談、倫理調整、教育に関するレポートを作成し、発表・討議により自己の課題を説明できる。</p> <p>4. 学部生の専門ゼミナールへでの助言・指導もしくは自施設の看護職の研究活動への助言・指導ができる。</p>
------	--

授業概要	老人看護 CNS の実習への円滑化を図るための演習であり、CNS に求められる 6 つの役割機能について、実際に慢性期にある高齢者とその家族を対象に包括的アセスメント、看護の必要性の診断プロセス、診断リストの作成および看護計画立案までの過程を展開する。6 つの専門看護師の役割のレポート作成に際しては、CNS 受験時の申請書類の一部として提示されている実績報告書の様式に基づいて記述を試みる。
------	--

授業計画	1	<p>授業内容</p> <p>授業形態：講義</p> <p>学修課題：授業のガイダンス</p> <p>学修内容：・授業の目標・内容・方法（進め方）・評価方法、受講・課題・資料配布等のルール、参考図書などについて</p> <p>・PDCA サイクルを基盤にした看護過程の思考法、課題解決に関する基礎的知識・技術、活用する書式、医療福祉施設の確認</p> <p>備考：小長谷、原</p>
	2-3	<p>授業内容</p> <p>授業形態：フィールドワーク①</p> <p>学修課題：老年高度実践看護事例：複雑な病態像で入院治療を要する慢性期あるいは急性憎悪期の高齢者の事例</p> <p>学修内容：・報告書の書式は問わないが、以下の記述を含むプレゼンテーションレポートを作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の「看護の必要性」を全人的・包括的に捉えるアセスメント ・根拠のある診断プロセスおよび優先度に基づく診断リスト ・長期・短期目標の設定とこれらを達成するための具体的・個別的計画立案 <p>○高度実践、調整に関するレポートは、CNS受験時に申請する実績報告書の書式に基づく</p> <p>く</p> <p>備考：小長谷、原、東條</p>
	4-5	<p>授業内容</p> <p>授業形態：フィールドワーク②</p> <p>学修課題：退院（入院・入所）支援・退院（入院・入所）調整事例</p> <p>学修内容：・報告書の書式は問わないが、以下の記述を含むプレゼンテーションレポートを作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の「看護の必要性」を全人的・包括的に捉えるアセスメント ・根拠のある診断プロセスおよび優先度に基づく診断リスト ・長期・短期目標の設定とこれらを達成するための具体的・個別的計画立案 <p>○高度実践、調整に関するレポートは、CNS受験時に申請する実績報告書の書式に基づく</p> <p>く</p> <p>備考：小長谷、原、東條</p>
	6-7	<p>授業内容</p> <p>授業形態：プレゼンと討議</p> <p>学修課題：フィールドワーク①②の発表・討議</p> <p>学修内容：・レポートによる報告を行い、学習課題の達成状況の考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題の取組み状況の発表について、客観的に達成状況を評価、自己の課題の明確化

	<p>8-9</p> <p>備考： 小長谷、原、東條</p> <p>授業内容</p> <p>授業形態： フィールドワーク③</p> <p>学修課題： 教授案作成に基づく教育・研修計画（実施）</p> <p>学修内容： ・対象者のレディネスを踏まえた適切かつ有効な現任教育（研修等）の計画を立案・実施・表価</p> <p>・目標・内容・方法（方略）・留意点・評価などで構成する</p> <p>備考： 小長谷、原、東條</p> <p>10</p> <p>授業内容</p> <p>授業形態： プレゼンと討議</p> <p>学修課題： フィールドワーク③の発表・討議</p> <p>学修内容： ・フィールドワーク③の成果発表と討議</p> <p>・学習課題の取組みの達成状況を客観的に評価でき、自己の課題の明確化</p> <p>＊フィールドワーク③の発表・討議は、学生一人 30 分以内でできるよう準備</p> <p>備考： 小長谷、原、東條</p> <p>11-13</p> <p>授業内容</p> <p>授業形態： フィールドワーク④</p> <p>学修課題： コンサルテーションおよび倫理調整の事例</p> <p>学修内容： ・相談・調整事例の報告</p> <p>・コンサルティ中心の場合、コンサルタントとして、コンサルティの困難な問題を明確化して整理・評価し、解決に向けてコンサルティの力量を引き出すプロセスを踏んでいることが理解できる記述</p> <p>・倫理調整として、倫理的問題の明確化解決のために誰とどのような倫理的調整を図るか、その結果のプロセスの記述</p> <p>○コンサルテーションおよび倫理調整のレポートは、CNS 受験時に提出する実績報告書の書式に基づく</p> <p>備考： 小長谷、原、東條</p> <p>14-15</p> <p>授業内容</p> <p>授業形態： プレゼンと討議</p> <p>学修課題： フィールドワーク④の発表・討議</p> <p>学修内容： ・フィールドワーク④のコンサルテーションおよび倫理調整の体験事例から目標達成状況の考察</p> <p>＊フィールドワーク④発表・討議は、学生一人 1 時間分以内でできるよう準備</p> <p>備考： 小長谷、原、東條</p>
事前・事後学習	<p>事前学修： 各回講義前に次回講義までの事前学修課題を指示する。</p> <p>事後学修： 講義内容を踏まえたレポートを作成する</p>
評価方法、評価基準	到達目標1～4に対して、事前学修状況：30%，授業時の貢献度（発表，討議）：40%，課題レポート：30%により評価する。
テキスト	最新の論文や文献を使用するため現時点では指定せず授業内で案内する。
参考図書・資料等	既修の授業で紹介した著書・論文など。
受講、課題、資料配布等のルール	<p>・事前学修課題： 授業日の前日までに教員に提出（メール可）</p> <p>＊詳細は初回開講時にガイダンスする</p>
教員からのメッセージ	本演習は老人看護 CNS の実習への導入的学修であるため、既修の科目の学修内容を活かして取り組んでください。特に課題レポートは、CNS の受験時の申請に必要な実績報告書に該当し、受験対策になります。また、いずれの体験事例も貴重であり、客観的な振り返りを通して、CNS としての実践力を高める土台になることを期待しています。
オフィスアワー	随時（メール調整）